



日本政策金融公庫のご案内

2024

総裁メッセージ

令和6年能登半島地震などにより被害にあわれた方々に心からお見舞いを申し上げます。

日本公庫では、本年、日本公庫の使命を「政策金融の担い手として、安心と挑戦を支え、共に未来を創る。」と定めました。公庫設立から15年、コロナ禍での事業者支援という前例にない課題への対応を経て、民間金融機関との連携も一段と深化しました。また、政府はスタートアップ支援に非常に力を入れており、スタートアップを取り巻く環境も大きく変化しています。さらに、海外市場の開拓や海外進出に取り組む事業者が増え、公庫の海外展開支援も進展してまいりました。

こうした状況を踏まえ、あらためて自身の足元を見つめ、将来の変化に対応できる組織であり続けるため、その拠り所として役割や目的を「使命」として今般、明文化したものです。

公庫は、この「使命」のもと、職員一人ひとりの自律的な行動や変化への挑戦を後押しし、今後も政策金融の役割を着実に果たすべく、組織一丸となって事業者支援に取り組んでまいります。

日本公庫の役割

日本公庫は、「一般の金融機関が行う金融を補完すること」を旨としつつ、国の中小企業・小規模事業者政策や農林漁業政策等に基づき、法律や予算で決められた範囲で金融機能を発揮している政策金融機関です。

新たな事業を始める方、災害や経営環境の変化に対応する方などの資金需要に、少額から応えてきており、日本の中小企業・小規模事業者や農林漁業者等の資金調達において重大な役割を担っております。

セーフティネット機能の発揮

我が国では、コロナ後の回復基調がみられるものの、令和6年能登半島地震といった自然災害、物価高、人材不足等も重なり、日本経済や地域を支える多くの事業者の皆さまは厳しい事業環境に置かれています。

日本公庫は、事業者の皆さまへのきめ細かな資金繰り支援を継続するとともに、「新型コロナ対策資本性劣後ローン」の利用促進に取り組むなど、経営改善・事業再生に重点を置いた支援を実施してまいりました。これにあたっては、各地域の民間金融機関と幅広く連携をとり、対応してきております。依然として先行きを見通しづらい状況にありますが、事業者の皆さまへの資金繰り支援を円滑に実行することはもとより、財務基盤の強化や事業の再構築なども支援するため、今後も民間金融機関や商工会議所、商工会など一層の連携を図り、支援機関全体で事業者の皆さまを支えていく所存です。

今後の取組み

日本公庫は、政策金融の役割を強く意識し、地震や台風をはじめとする自然災害、感染症の流行、経済情勢等による経営環境の変化など、あらゆる危機に対処可能な態勢を整備して、いかなる状況下においても着実にセーフティネット機能を発揮してまいります。

また、リスクテイク機能を発揮し、創業・スタートアップ・新事業、事業再生、事業承継、海外展開、農林水産業の持続可能な成長、ソーシャルビジネスなど、重点事業分野の支援にも力を注ぎ、挑戦する事業者を支えながら地域経済の成長・発展に貢献してまいります。

(創業・スタートアップ・新事業支援)

日本公庫は、これまでスタートアップ支援領域で先駆的な取組みを行い、創業・スタートアップ・新事業への支援に積極的に取り組んでまいりました。公庫との取引を経て株式市場への上場を果たし、今や、日本経済を牽引しているような企業もあります。スタートアップは、経済成長や雇用創出など社会に対して好影響をもたらすと同時に、新たな社会課題を解決する存在にもなっています。引き続き、民間金融機関、ベンチャーキャピタル、大学などとも連携しつつ、資金支援に取り組むとともに、マッチングイベントの開催など成長支援にも取り組んでまいります。



(事業承継支援)

我が国では経営者の高齢化などを背景に、事業承継支援の重要性が高まっております。地域に必要とされる事業がきちんと引き継がれていくよう、情報収集のアンテナを高めニーズを把握し、「地域の想いを次世代につなぐ架け橋」として、商工会議所や商工会など各地域の関係機関とも連携の上、マッチングなどの取組みを進めてまいります。

(海外展開支援)

事業者の海外展開は、世界経済の成長を自社の成長に繋がられるとともに、リスク分散の観点からも重要であり、事業の強靭さを高めることにも寄与します。日本公庫は、こうした取組みを資金と情報の両面からサポートしており、今後も支援機関の輪を広げ、海外展開を行う事業者の課題解決に取り組んでまいります。

あわせて、外国人材を活用して国内で事業活動を行う皆さまも支援してまいります。

(農林水産業の持続可能な成長への支援)

多くの農林水産業者が、飼料・肥料や燃料価格の高騰等の影響により、依然として厳しい経営環境におかれています。一方、このような経営環境の変化に対応して、規模拡大や省力化、輸出、環境負担低減、耕畜連携など、持続可能な経営への転換に向け、積極的に事業に取り組む方々もおられます。日本公庫は、事業者の皆さまへの資金支援、販路開拓支援等を実施し、農林水産業の持続可能な成長への支援に取り組んでまいります。

今後とも、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年7月5日

総裁

田中一穂

日本政策金融公庫のプロフィール (令和6年3月31日時点)

- 名称：株式会社日本政策金融公庫(略称：「日本公庫」)
- 設立年月日：平成20年10月1日
- 根拠法：株式会社日本政策金融公庫法
- 本店：東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
- 総裁：田中 一穂
- 資本金等：資本金 11兆7,684億円
資本準備金 5兆2,841億円
- 支店等：国内 152支店 海外駐在員事務所 3カ所
- 職員数：7,423人(令和6年度予算定員)

基本理念

● 政策金融の的確な実施

国の政策の下、民間金融機関の補完を旨としつつ、社会のニーズに対応して、種々の手法により、政策金融を機動的に実施する。

● ガバナンスの重視

高度なガバナンスを求め、透明性の高い効率的な事業運営に努めるとともに、国民に対する説明責任を果たす。

さらに、継続的な自己改革に取り組む自律的な組織を目指す。

使命

政策金融の担い手として、安心と挑戦を支え、共に未来を創る。

政策金融を担い続ける者として、お客さまに寄り添い、地域の関係機関と共に安心と挑戦を支え、日本の未来を創る。

使命に込めた想い

● 政策金融の担い手

- 政策金融の担い手としての矜持を常に持ち、業務に取り組みます。
- お客さまに傾聴の姿勢で臨み、お客さまの実態・要望を把握して、政策金融を的確に実施します。

● 安心と挑戦

- いかなる危機発生時でもセーフティネット機能を発揮することでお客さまの安心を支えます。
- お客さまの新たな取り組み、成長、再チャレンジといった挑戦を支えます。
- 職員一人ひとりの安心と挑戦を支えます。

● 共に未来を創る

- 地域の関係機関の皆さまと共にお客さまを支えることで、地域の維持・発展に貢献し、日本の未来を共に創ります。

経営方針

事業運営方針

- セーフティネット機能を発揮し、いかなる危機でもお客さまの事業継続を支える
- 重点事業分野を支援し、地域を担うお客さまの発展を支える
- 民間金融機関や関係機関と連携し、お客さまと地域を共に支える

組織運営方針

- 危機に対応できる強靱な組織を確立し、いかなる時も政策金融機能を堅持する
- DX等の業務改革を組織一体となって推進し、新たな価値を創出する
- 人的資本への投資を推進し、職員の能力・働きがい及び組織力を高める

業務運営計画

事業運営計画

1 セーフティネット機能の発揮

- ・お客さまへのセーフティネット機能の発揮
- ・信用補完の着実な実施

2 重点事業分野の支援

- ・創業・スタートアップ・新事業支援
- ・事業再生支援
- ・事業承継支援
- ・海外展開支援
- ・農林水産業の持続可能な成長への支援
- ・ソーシャルビジネス支援
- ・その他重点事業分野の支援

DX・デジタル化の推進への支援
環境・エネルギー対策への支援
企業活力の向上を支援
教育の機会均等への貢献
我が国を取り巻く環境変化への対応を支援

3 民間金融機関や関係機関との連携

- ・民間金融機関連携の深化
- ・関係機関をつなぐ役割の発揮
- ・地方自治体との連携強化

4 サービス向上・地域支援

- ・支援策の高度化・推進
- ・全国152支店のネットワーク活用
- ・政策提言による制度・施策の改善
- ・対外発信の強化

組織運営計画

1 強靱な組織の確立

- ・危機管理態勢の一層の強化
- ・適切なリスク管理の実施
- ・コンプライアンス態勢の強化
- ・システムの安定稼働とセキュリティ対策の強化

2 DX等の業務改革

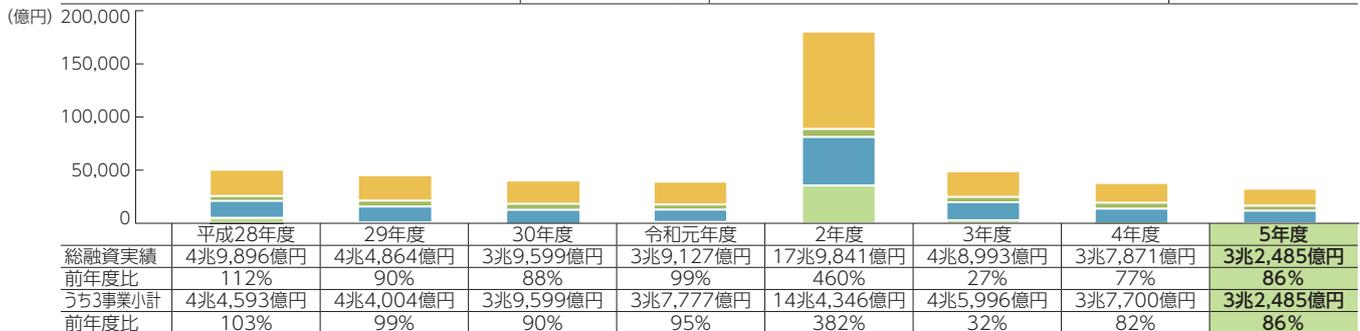
- ・デジタル化・DXの推進等による業務の効率化・高度化
- ・業務及びシステムの共通化・統合

3 人的資本への投資

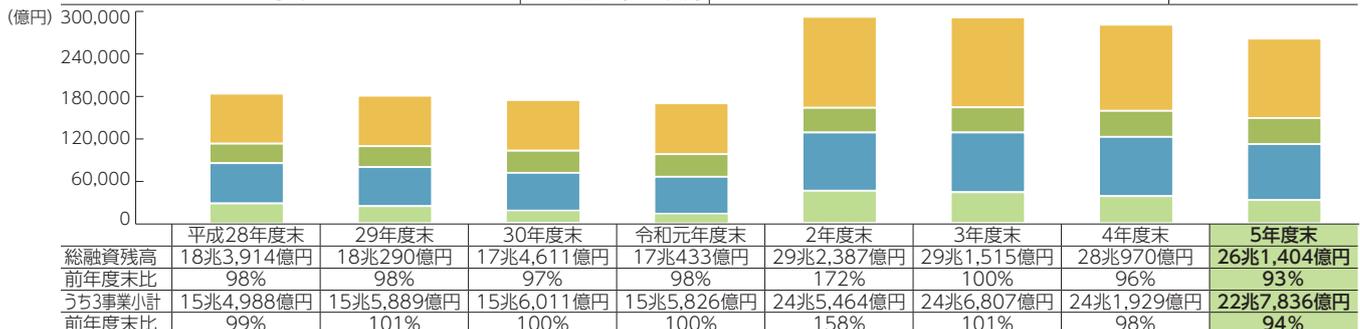
- ・職員教育の充実
- ・人材活用の推進
- ・多様な人材が活躍できる職場づくり

融資業務の全体実績

令和5年度 総融資実績 3兆2,485億円(前年度比86%)			
国民生活事業	1兆5,972億円	危機対応円滑化業務(ツーステップ・ローン)	—
農林水産事業	4,692億円		
中小企業事業(融資)	1兆1,820億円	特定事業等促進円滑化業務(ツーステップ・ローン)	—
小計	3兆2,485億円		



令和5年度末 総融資残高 26兆1,404億円(前年度末比93%)			
国民生活事業	11兆2,120億円	危機対応円滑化業務(ツーステップ・ローン)	3兆2,756億円
農林水産事業	3兆6,852億円		
中小企業事業(融資)	7兆8,863億円	特定事業等促進円滑化業務(ツーステップ・ローン)	810億円
小計	22兆7,836億円		



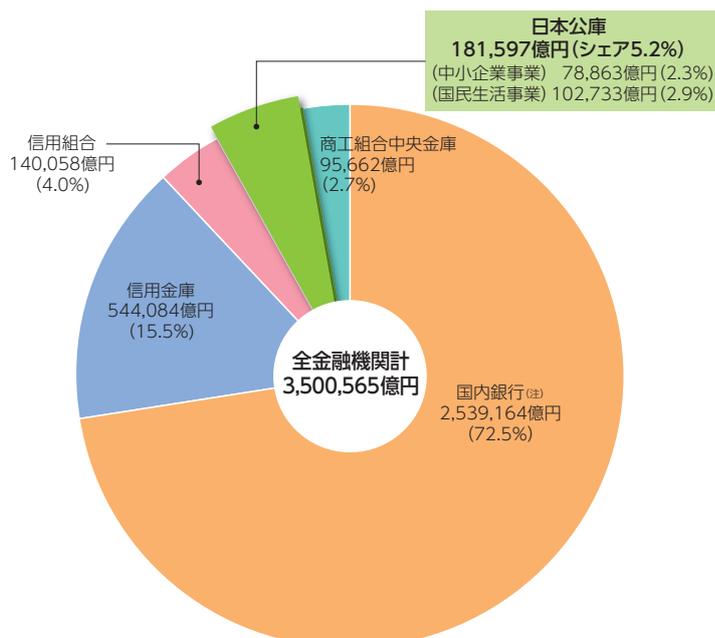
日本政策金融公庫の取組み

日本公庫は、コロナ禍において影響を受けたお客さまへの対応や地震・台風その他の自然災害からの復旧・復興支援などのセーフティネット機能の発揮について、着実かつ機動的にその役割を果たすとともに、その上で、今後の地域経済の発展のため、重点事業分野への支援（①創業・スタートアップ・新事業支援 ②事業再生支援 ③事業承継支援 ④海外展開支援 ⑤農林水産業の持続可能な成長への支援 ⑥ソーシャルビジネス支援など）に積極的に取り組んでいます。

日本公庫の融資構造

中小企業向けの融資残高における日本公庫（国民生活事業・中小企業事業）の残高シェアは**5.2%**となっています。

中小企業向け 融資残高シェア (令和6年3月末時点)

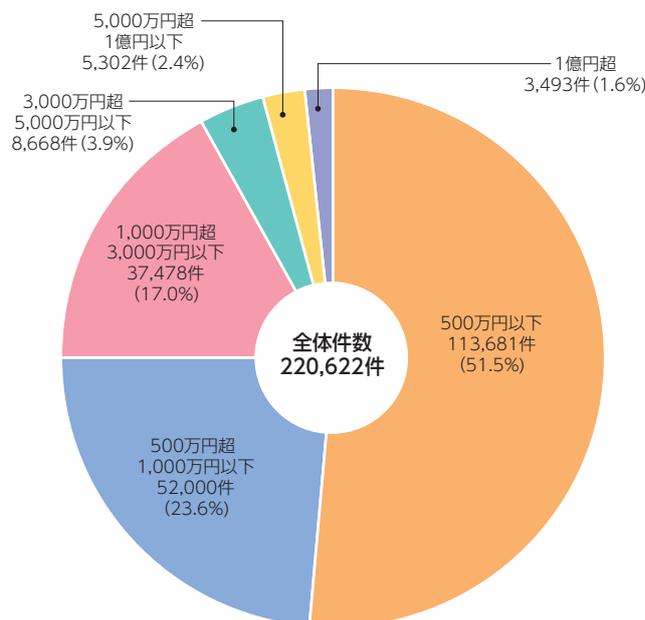


(注) 都市銀行、地方銀行、第二地方銀行、信託銀行の合計
(出典) 日本銀行「貸出先別貸出金」「現金・預金・貸出金」、全国信用組合中央協会「全国信用組合主要勘定」、日本政策金融公庫「業務統計」、商工組合中央金庫「業務統計」

令和5年度の日本公庫の融資金額別の構成割合を見ると、事業資金の融資件数約22万件のうち、融資金額**500万円以下が52%、3,000万円以下で92%**となっています。

その他、国民一般向けに教育ローンの融資を行っています(年間約9万件)。

令和5年度融資金額別実績(注)



(注) 国民生活事業・農林水産事業・中小企業事業(融資)の事業資金の合計

セーフティネット機能の発揮

新型コロナウイルス感染症への対応

①新型コロナウイルス感染症関連の融資

新型コロナウイルス感染症関連の融資実績は、相談窓口設置日である令和2年1月29日から令和6年3月末までの累計で**128万7,001件**、**21兆1,862億円**となりました。

②取引先数の推移

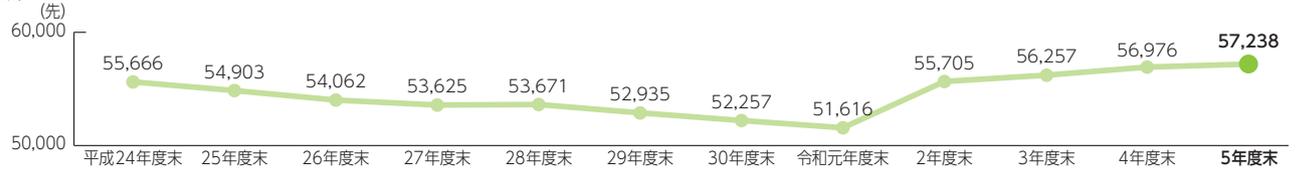
新型コロナウイルス感染症が発生する前まで、日本公庫の取引先数は減少傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症への対応としてこれまでにない膨大な融資のご相談に対応した結果、令和5年度末の取引先数は令和元年度末と比べ、国民生活事業で**約29万先**、農林水産事業で**約6千先**、中小企業事業で**約1万4千先**の増加となりました。

取引先数の推移

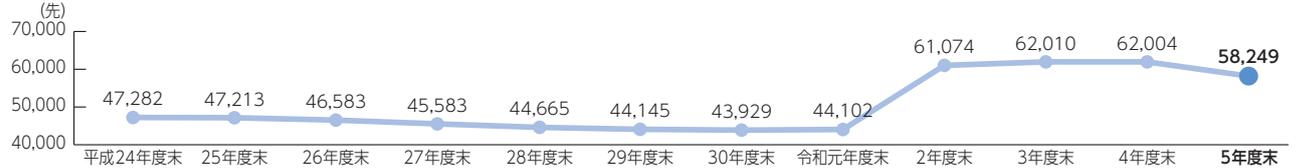
(国民生活事業)



(農林水産事業)



(中小企業事業)



③新型コロナ対策資本金性劣後ローン

新型コロナウイルス感染症により深刻な影響を受けている経済環境下において、関係機関の支援を受けて事業の発展・継続を図る方などを対象に、財務体質強化を図るための資金を供給する「新型コロナウイルス感染症対策挑戦支援資本金強化特別貸付(新型コロナ対策資本金性劣後ローン)」の取扱いを令和2年8月から開始しました。令和6年3月末時点での融資実績は、**1万30先**、**1兆1,648億円**となりました。

新型コロナ対策資本金性劣後ローンの融資実績(累計)



令和6年能登半島地震への対応

令和6年1月4日付で「令和6年能登半島地震による災害に関する特別相談窓口」を設置し、被害を受けた中小企業・小規模事業者や農林漁業者等の皆さまからのご融資やご返済に関する相談に迅速かつきめ細かく対応しています。また、中小企業・小規模事業者向けに「令和6年能登半島地震特別貸付」、農林漁業者等向けに「金利負担軽減等の特例措置」等を実施し、被害を受けた皆さまを支援しています。

令和6年能登半島地震関連の融資実績

令和5年度	
件数	金額
357件	39億円

セーフティネット関連融資^(注)実績

東日本大震災や令和6年能登半島地震、台風その他の自然災害のほか、国際的な金融不安、経済収縮による悪影響に伴い資金繰りに支障をきたしている方々に対する、セーフティネット関連の令和5年度の融資実績は、**11万6,738件、1兆7,663億円**となりました。

(注) 「セーフティネット関連融資」とは新型コロナウイルス感染症特別貸付、災害復旧貸付、東日本大震災復興特別貸付、経営環境変化対応資金、金融環境変化対応資金、農林漁業セーフティネット資金等が含まれます。

重点事業分野の支援

創業・スタートアップ・新事業支援

①創業融資実績

令和5年度の創業前及び創業後1年以内の企業に対する融資実績は、**2万6,447先(前年度比104%)、1,301億円(同100%)**となりました。

女性・若者・シニア起業家への創業融資実績

	令和3年度	4年度	5年度	前年度比
女性層	6,077先	6,367先	6,631先	104%
若年層 (35歳未満)	7,889先	7,368先	7,368先	100%
シニア層 (55歳以上)	2,509先	2,386先	2,521先	106%

(注) 女性のシニア層及び若年層は、女性層ともう一方の層で重複して集計しています。

創業前及び創業後1年以内の企業に対する融資実績



②「新事業育成資金^(注1)」及び「スタートアップ支援資金^(注2)」の融資実績

令和5年度の「新事業育成資金」及び「スタートアップ支援資金」の融資実績^(注3)は、**912先(前年度比111%)、529億円(同122%)**となりました。

(注1) 高い成長性が見込まれる新たな事業に取り組む中小企業者を支援する特別貸付制度です。

(注2) 我が国の経済成長及び社会課題の解決を先導することが見込まれるスタートアップの成長を支援する特別貸付制度です。

(注3) 融資実績には、挑戦支援資本強化特別貸付を含みます。

「新事業育成資金」及び「スタートアップ支援資金」の融資実績



③新株予約権付融資の実績

「新事業育成資金」及び「スタートアップ支援資金」には、株式公開を目指すスタートアップなどを対象として、企業が新たに発行する新株予約権を日本公庫中小企業事業が取得し、必要な資金を供給する「新株予約権付融資」があります。

同制度の令和5年度の融資実績は、**75先(前年度比109%)、133億円(同177%)**となりました。

「新事業育成資金」及び「スタートアップ支援資金」のうち、新株予約権付融資の実績

	令和3年度	4年度	5年度	前年度比
先数	41先	69先	75先	109%
金額	35億円	75億円	133億円	177%

④「資本性ローン(新事業型)」の融資実績

令和5年度の「資本性ローン(新事業型)」の融資実績は、**43先(前年度比187%)、63億円(同300%)**となりました。

「資本性ローン(新事業型)」の融資実績

	令和3年度	4年度	5年度	前年度比
先数	24先	23先	43先	187%
金額	29億円	21億円	63億円	300%

⑤地域のスタートアップ支援機関との連携

地域のスタートアップ支援機関(民間金融機関、ベンチャーキャピタル、大学など)と連携して、地域のスタートアップ等によるプレゼンテーションイベントを開催し、スタートアップの発掘、支援に取り組んでいます。

⑥「高校生ビジネスプラン・グランプリ」の開催

日本公庫では、ビジネスプランを作成する過程を通じて、自ら未来を切り拓いていける力を養うことを目的として、平成25年度から「高校生ビジネスプラン・グランプリ」を開催しています。

「第11回高校生ビジネスプラン・グランプリ」は、505校、5,014件の応募がありました。全国の創業支援センターが中心となって472校の学校に出張授業を実施し、ビジネスプランの作成サポートを実施しました。

令和6年1月に行われた最終審査会ではファイナリスト10組による白熱したプレゼンテーションが繰り広げられました。田園調布学園高等部の中村美月さんの「世界の女性を幸せにする『テック・ドミトリー』」がグランプリを獲得し、多くのメディアからも注目されました。また、ビジネスプランの発表に臨む高校生に対して、第10回に引き続き、岸田内閣総理大臣からビデオメッセージが寄せられました。



第11回グランプリを受賞した田園調布学園高等部の中村美月さん



岸田内閣総理大臣からのビデオメッセージ

〈第12回 高校生ビジネスプラン・グランプリ〉

令和6年8月20日～9月25日 応募受付期間

令和6年11月下旬 ファイナリスト10組(最終審査会参加者)発表

令和7年1月12日 最終審査会・表彰式の開催

- 詳しくは日本公庫ホームページをご覧ください。また、高校生ビジネスプラン・グランプリFacebookページ及びInstagramページでは最新情報を随時更新しています。

高校生ビジネスプラン・グランプリHP
(<https://www.jfc.go.jp/n/grandprix/>)



高校生ビジネスプラン・グランプリ
Facebookページ
(<https://www.facebook.com/grandprix.jfc/>)



高校生ビジネスプラン・グランプリ
Instagramページ
(https://www.instagram.com/grandprix_kouko/)



事業再生支援

令和5年度の再生支援関連の融資実績は、「企業再生貸付」については**619先(前年度比138%)**、**475億円(同118%)**となり、「資本性ローン(再生型)」については、**50先(同238%)**、**42億円(同150%)**となりました。また、再生支援関連の金融支援実績は、**202先(同149%)**となりました。

再生支援関連の融資実績

		令和3年度	4年度	5年度	前年度比
企業再生貸付	先数	308先	450先	619先	138%
	金額	302億円	401億円	475億円	118%
うち資本性ローン(再生型)	先数	17先	21先	50先	238%
	金額	22億円	28億円	42億円	150%

再生支援関連の金融支援実績

		令和3年度	4年度	5年度	前年度比
DDS、DES等の 抜本的な金融支援手法 ^(注)	先数	114先	136先	202先	149%

(注) DDS、DESのほか、債権の不等価譲渡、第二会社方式、債権放棄による実績。当該期間に日本公庫が同意した先数を集計したものです。

- ・DDS(デット・デット・スワップ)：既存債務の一部を劣後債務に転換する金融手法。
- ・DES(デット・エクイティ・スワップ)：既存債務の一部を株式化することによって、財務体質の改善を図る金融手法。
- ・債権の不等価譲渡：債権者が債権を地域再生ファンド等へ額面より低い価格(時価)で譲渡する金融手法。
- ・第二会社方式：収益性のある事業を会社分割又は事業譲渡によって切り離して他の事業者等に承継させ、過剰債務部分は不採算事業とともに元の会社に残して特別清算等の法的整理によって債務免除を受ける金融手法。
- ・債権放棄：債権者が債権の一部を放棄することによって、再生企業のキャッシュフロー及び財務内容を改善させる金融手法。

ソーシャルビジネス^(注)支援

①ソーシャルビジネス関連の融資実績

令和5年度のソーシャルビジネス関連の融資実績は、**1万6,514件(前年度比108%)**、**1,222億円(同97%)**となりました。

(注)高齢者や障がい者の介護・福祉、子育て支援、地域活性化、環境保護など、地域や社会が抱える課題の解決に取り組む事業をいいます。

ソーシャルビジネス関連の融資実績



②Webページ「ソーシャルビジネス情報局」による情報発信

令和5年7月に「ソーシャルビジネス情報局」を開設し、地域・社会の課題解決のため、ソーシャルビジネスに取り組む方々へのインタビューや支援事例などを紹介しています。



詳細はこちら



③「ビジネスプラン見える化BOOK」による事業計画策定の支援

ソーシャルビジネスの事業計画策定を支援するため、「ビジネスプラン見える化BOOK」(以下、「見える化BOOK」)をホームページで公開しています。

「見える化BOOK」は、事業計画に関わる6つの要素(組織使命・現状把握・実現仮説・成果目標・財源基盤・組織基盤)を整理できるワークブックです。ソーシャルビジネスの担い手の皆さまが事業計画を策定する際にご活用いただけます。



詳細はこちら



事業承継支援

令和5年度の事業承継関連の融資実績は、**2,790件(前年度比107%)**、**913億円(同108%)**となりました。

中小企業・小規模事業者の経営者の高齢化が進む中、企業が培ってきた技術・ノウハウ等の貴重な経営資源が円滑に引き継がれるよう、事業承継に関する多様な資金需要に対応しています。

事業承継関連の融資実績

	平成26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
件数	176件	707件	1,492件	2,467件	5,593件	9,047件	1,442件	2,380件	2,610件	2,790件
金額	119億円	186億円	296億円	424億円	882億円	1,503億円	478億円	766億円	842億円	913億円

(注) 1.平成29年4月からは事業承継前の準備資金が、令和2年度からは生活衛生関係営業を営む者が対象となるなど、幅広い資金需要に対応するため、融資対象を拡充しています。
2.上の表には平成27年2月に創設された新事業活動促進資金(事業承継関連*)の実績を含んでいます。※平成29年に事業承継・集約・活性化支援資金に統合。
3.平成30年度から、事業承継・集約・活性化支援資金等以外で、事業承継に必要な資金を用途とする貸付(認定貸付)を集計対象に追加しています。

「経営者の意識喚起」の取組み事例

第三者承継事例集「ギフトvol.3」



日本公庫の「事業承継マッチング支援」や他機関の支援施策を利用して、第三者承継を実現した先代経営者と現経営者の想いや取組みを紹介する冊子 (令和4年7月発行)

「みらいへのバトン」



お客さまが事業承継に関する自己診断を行うとともに、自社の事業承継に係る課題と進むべき方向性を公庫職員と共有するための提供用冊子 (令和3年4月改訂)

事業承継セミナー



事業承継の重要性、持続的な経営を行うための承継ノウハウの習得を目的とした経営者向けセミナー (令和4年1月開催)

事業承継マッチング支援

「事業承継マッチング支援」は、後継者不在の小規模事業者等と創業希望者等を引き合わせ、第三者による事業承継を支援する取組みです。

事業承継マッチング支援の令和5年度までの累計実績は、申込が13,518件、引き合わせが1,349件となり、168件が成約に至りました。

このほか、令和5年度は、後継者不在企業のマッチングを一層推進するため、全国15カ所にてオープンネーム(実名)で後継者の公募を行う「事業承継マッチングイベント」をオンラインで開催しました。同イベントにおいては、事業譲渡を希望する61社の事業者が、延べ1,974名の参加者(事業の譲受に関心のある方や事業承継を支援する方など)に対して事業内容を紹介し、後継者を公募しました。

なお、令和6年度においては、同イベントを13カ所で開催し、令和7年度までに全都道府県で開催することを予定しています。



●事業承継マッチング支援実績

取組実績	譲渡希望	譲受希望
申込登録件数	4,216件	9,302件(2,187件)
引き合わせ件数	1,349件	
成約件数	168件	

(注)事業承継マッチング支援実績は、平成31年4月から令和6年3月までの累計実績です。また、申込登録件数の()内は、創業希望者の登録件数です。

●事業承継マッチングイベントの様子



譲渡希望先の事業紹介(宮城県)

事業承継マッチング支援については、日本公庫ホームページでもご覧いただけます。



事業承継マッチング支援の成約事例

譲渡側は、静岡県で調剤薬局を経営する株式会社イシヅ(代表者(当時)、石津氏)。後継者が不在で、日本公庫の「事業承継マッチング支援」に登録。

譲受側的小林氏は、神奈川県出身の薬剤師。大手調剤薬局で勤務していたが、地域に根差した薬局を経営したいとの思いから、移住を含めた独立を検討していた。

公庫は、石津氏から事業の譲渡に関する希望をヒアリングし、小林氏を紹介。小林氏は、店舗訪問等を通じて、地域に欠かせない薬局であると確信したことから、パートナーの佐藤氏と移住して「継ぐスタ^(注)」することを決意。令和5年8月、事業譲渡契約を締結した。

(注)事業を受け継いでスタートする創業形態



譲渡側の石津氏(左)と譲受側的小林氏(中央)及び佐藤氏(右)

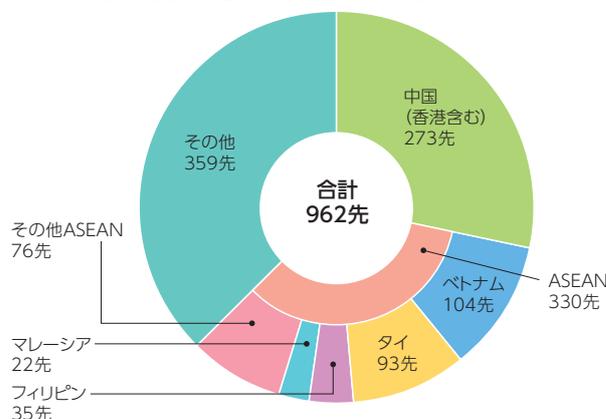
海外展開支援

①「海外展開・事業再編資金」の融資実績

令和5年度の「海外展開・事業再編資金」の融資実績は、**962先(前年度比152%)**、**519億円(同123%)**となりました。



「海外展開・事業再編資金」の国・地域別実績内訳



そのうち、クロスボーダーローン^(注)の令和5年度の融資実績は**93先**、**68億円**となりました。令和3年1月の制度開始以来の累計実績(令和6年3月末まで)は**298先**、**209億円**となっています。

(注) 経済の構造的変化等に適応するために、国内親会社(中小企業者等)と共同で経営力向上や経営革新、地域経済の活性化等に取り組む海外現地法人に対して、日本公庫が直接融資する制度です。ご利用いただける国・地域は、タイ、ベトナム、香港、シンガポール又はフィリピンとなっています。

クロスボーダーローンのスキーム図



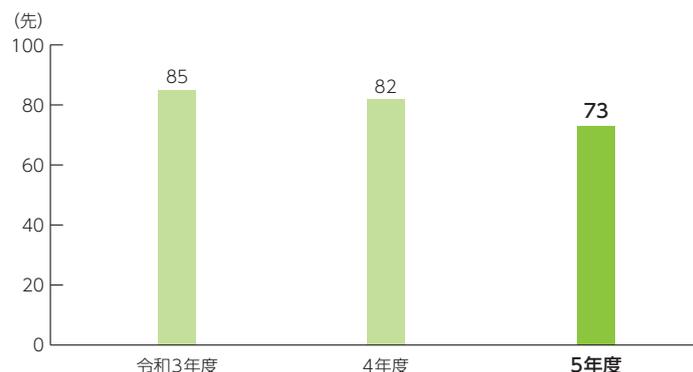
②スタンドバイ・クレジット制度^(注)の利用実績

令和5年度は、タイ、中国、韓国、インドネシア、台湾、フィリピン及びベトナムの提携金融機関に対して信用状を発行し、その利用実績は**73先**となりました。平成24年度の制度開始以来の累計実績(令和6年3月末まで)は**960先**となっています。

また、より多くの中小企業者の皆さまが本制度を利用できるよう、平成25年度から全国各地の地域金融機関と連携したスキームを構築しています。令和6年3月末時点で全国62の地域金融機関と連携しており、制度開始以降延べ**62先(令和5年度4先)**に対して、本連携スキームによる信用状を発行しました。

(注) 国内親会社(中小企業者等)と共同で経営力向上や経営革新、地域経済の活性化等に取り組む海外現地法人等が、日本公庫と提携する金融機関から現地流通通貨建て長期資金の借入を行う際、その債務を保証するために公庫がスタンドバイ・クレジット(信用状)を発行することで、海外での円滑な資金調達を支援するものです。

スタンドバイ・クレジット制度の利用実績



③ホーチミン駐在員事務所の新設

令和5年11月、ASEAN地域での更なる海外展開支援・情報収集の強化を目的に、ベトナム（ホーチミン市）に、ホーチミン駐在員事務所を開所しました。これにより、日本公庫の海外駐在員事務所は、上海（中国）、バンコク（タイ）、ホーチミン（ベトナム）の3拠点となりました。

また、令和6年1月、ホーチミン市内において開所式を開催し、お取引先現地法人、在ベトナム日本国大使館等日系関係機関及び日系金融機関から約150名が参加しました。ホーチミン駐在員事務所の開所を広く周知するとともに、参加者同士の交流の機会を提供することができました。



ホーチミン駐在員事務所入居ビル



開所式(写真撮影)の様子

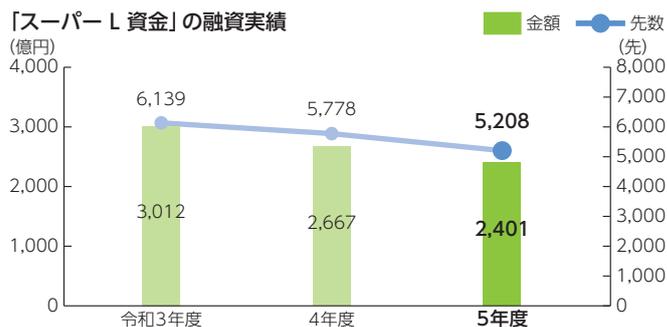


開所式(講演会)の様子

農林水産業の持続可能な成長への支援

①農業の担い手(法人・大規模家族経営や農業参入)を支援

令和5年度の「農業経営基盤強化資金」(略称：スーパーL資金)の融資実績は、**5,208先(前年度比90%)**、**2,401億円(同90%)**となりました。



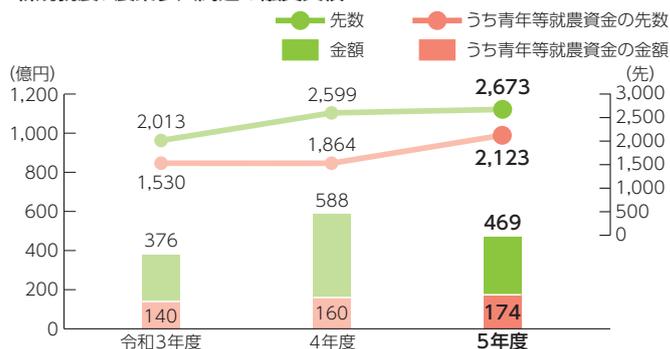
②新規就農や農業参入の取組みを支援

令和5年度の新規就農、農業参入関連の融資実績は、**2,673先(前年度比103%)**、**469億円(同80%)**となりました。

平成26年度から取扱いを開始した「青年等就農資金^(注)」の融資実績は、**2,123先(前年度比114%)**、**174億円(同109%)**となりました。

(注)新たに農業経営を営もうとする青年等であって、市町村から青年等就農計画の認定を受けた認定新規就農者の方を支援する資金です。

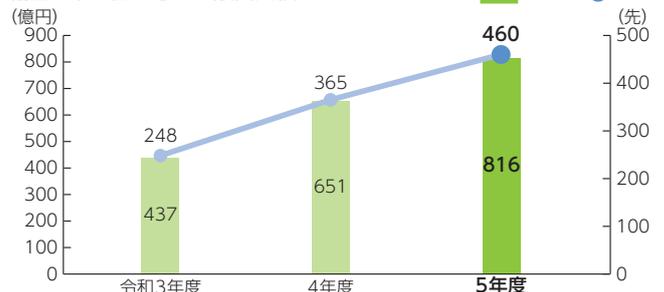
新規就農、農業参入関連の融資実績



③輸出の取組みを支援

令和5年度の「輸出により経営改善に取り組む方」への融資実績は、**460先(前年度比126%)**、**816億円(同125%)**となりました。

輸出に取り組む方への融資実績



民間金融機関や関係機関との連携

日本公庫は、民間金融機関や関係機関と連携してお客さまに多様なサービスをご提供しています。「地方版総合戦略」への積極的な参画のほか、地域やお客さまが抱える課題の解決に向けた取組みの推進を通じて、地域の活性化に取り組んでいます。

(1) 民間金融機関連携の深化

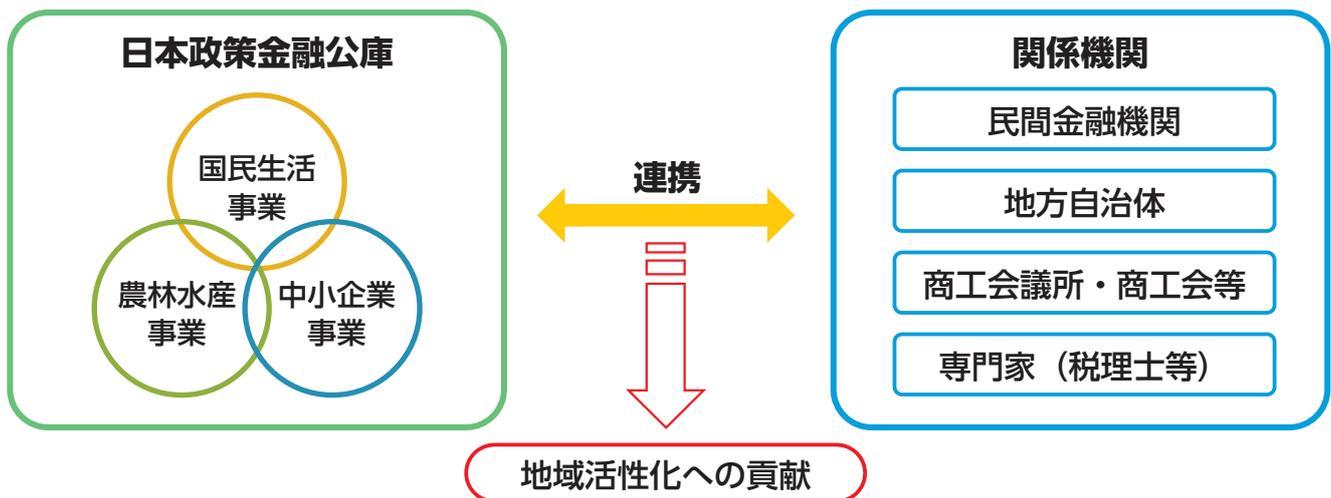
- 民間金融機関の補完を旨としつつ、中小企業・小規模事業者、農林漁業者等のお客さまにさまざまな支援を行っています。民間金融機関と連携して、それぞれの強みやノウハウを組み合わせた多様なサービスをご提供することにより、お客さまの利便性向上に努めております。

(2) 関係機関をつなぐ役割の発揮

- 地域の関係機関と共に、地域やお客さまが抱える課題の解決に向けた取組みを推進しています。

(3) 地方自治体との連携の強化

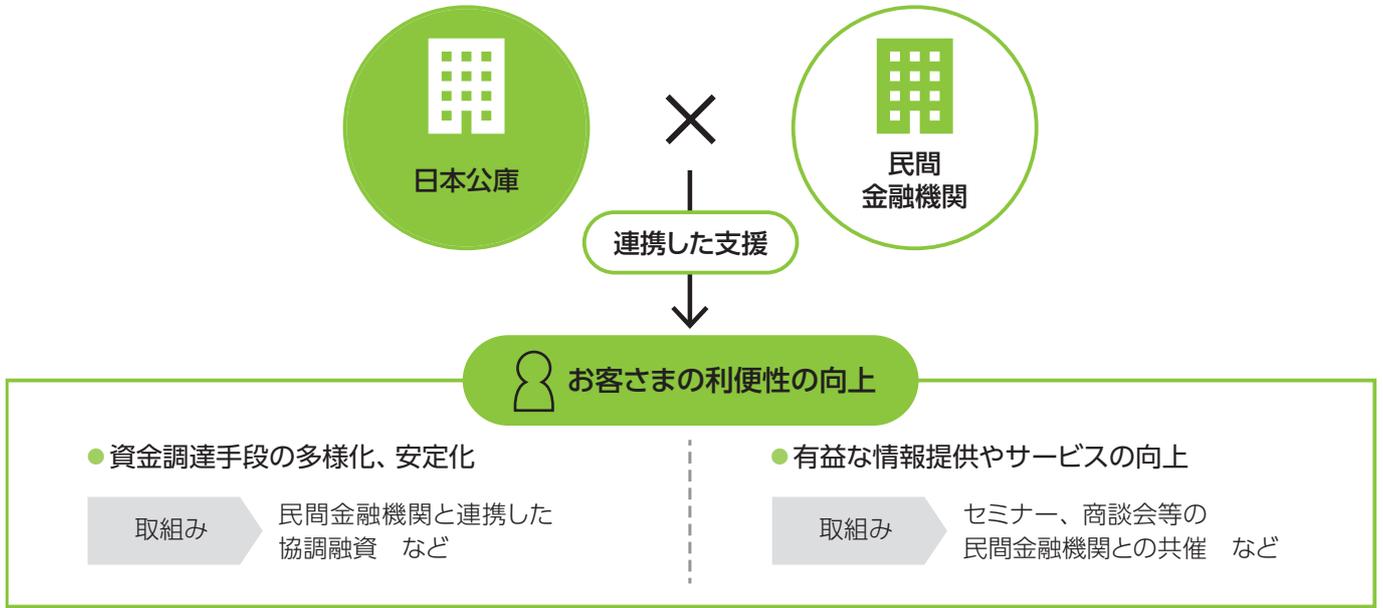
- 「地方版総合戦略」の各種施策への積極的な関与や地方自治体との意見交換等を通じて、地方自治体との連携強化に取り組んでいます。



民間金融機関連携の深化

①民間金融機関との連携

日本公庫は、民間金融機関の補完を旨としつつ、中小企業・小規模事業者、農林漁業者等のお客さまにさまざまな支援を行っています。民間金融機関と連携して、それぞれの強みやノウハウを組み合わせた多様なサービスをご提供することにより、お客さまの利便性向上に努めております。



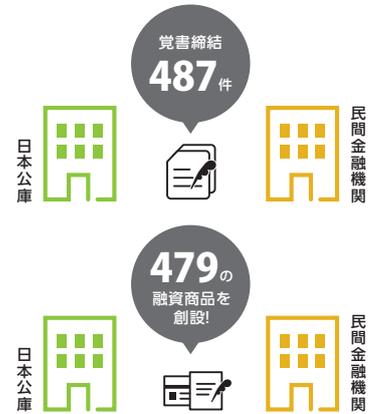
②業務連携・協力にかかる覚書締結状況

これまで多くの民間金融機関との業務連携を進めており、**令和6年3月末時点で、487機関**と業務連携・協力にかかる覚書を締結しています。

③協調融資商品の創設実績

平成26年度から連携の実効性を高めるため民間金融機関と連携・協調して融資するスキーム作りに取り組んでおり、協調融資スキーム^(注)を構築した民間金融機関数は、**令和6年3月末時点で、436機関**にのびります。協調融資スキームの中には、民間金融機関と連携し、協調融資商品を創設して事業者を支援しているものもあり、**令和6年3月末時点で、309機関と479商品**を創設しています。

(注)協調融資として取り扱う案件の具体的な紹介ルールの取り決めがなされているものです。



④協調融資^(注)実績

令和5年度の民間金融機関との協調融資実績は、**3万2,594件(前年度比109%)、1兆2,406億円(同98%)**となりました。

(注)同一目的の資金計画に対し、日本公庫と民間金融機関が協議を経たうえで、融資(保証)を実行又は決定したものです(公庫で集計したもの。両者の融資実行・決定時期が異なる場合も含まれます)。

協調融資実績

	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	前年度比
件数	28,736件	24,467件	25,259件	29,894件	32,594件	109%
金額	12,556億円	16,847億円	12,527億円	12,645億円	12,406億円	98%
融資単価	4,369万円	6,885万円	4,959万円	4,229万円	3,806万円	90%

⑤日本公庫から民間金融機関へのお客さま紹介実績

お客さまの資金ニーズの多様化に対応するとともに、お客さまの資金調達の選択肢を増やすことなどを目的に、日本公庫から民間金融機関へお客さまを紹介する取組みを実施しています。

令和5年度の**公庫から民間金融機関へのお客さま紹介は7,943件**となりました。

関係機関をつなぐ役割の発揮

- お客さまに対するコンサルティング機能の強化の観点から、地域の関係機関と連携し、セミナーや勉強会などを積極的に開催しています。
- 政策金融機関として地域の関係機関を「つなぐ」役割を発揮し、お客さまや地域が抱える課題の解決に貢献するため、令和5年度は、東京・広島・青森の3カ所で地域の金融機関、支援団体、地元企業・団体とともに「地域経済活性化シンポジウム」を開催しました。東京会場「想いを未来につなぐ事業承継」、広島会場「新たな発想で世の中を変える～スタートアップ企業がもたらす活力～」、青森会場「地域発!世界に届ける日本の食」をテーマに、支援メニューの紹介、現状の取組み、課題、今後の可能性などについて情報交換を実施しました。

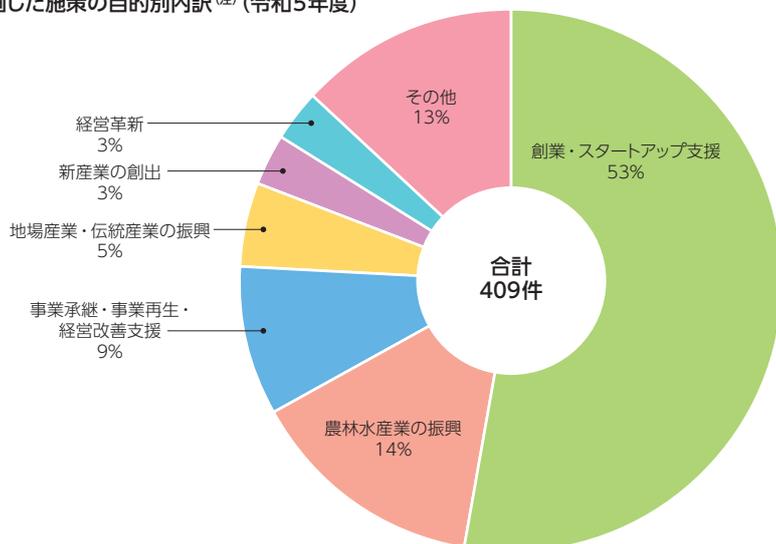


地域経済活性化シンポジウム in 青森(令和5年10月31日)

地方自治体との連携の強化

- 全国152支店において、地域の実状やニーズをとらえ、地域が抱える課題に、きめ細かに対応しています。
- 令和5年度は、「地方版総合戦略」に掲げる各種施策のうち、創業・スタートアップ支援や農林水産業の振興などの分野において、**409件**の個別施策に参画しました。また、地方自治体の首長等との意見交換などを通じて、地域が抱える課題を理解するとともに、解決に向けた取組みを推進することで、連携をさらに強化しました。

参画した施策の目的別内訳^(注)(令和5年度)



(注) 日本公庫による分類

全国152支店のネットワークを活用した支援

令和5年度は、お客さまの本業支援や地域の活性化に貢献するため、全国各地でマッチングや商談会・セミナーの開催などに取り組みました。

「全国オンライン商談会」や「アグリフードEXPO」など、全国規模の商談会の開催に加え、全国の支店においても、遠隔地のお客さま同士を繋ぐオンラインマッチングや地域の特色を活かした商談会・セミナーを開催するなど、お客さまの課題解決をサポートしています。

インターネットビジネスマッチングサイトでは、販売先や仕入先の拡大などのお客さま同士のニーズを橋渡しする「場」を提供しています。

日本政策金融公庫インターネットビジネスマッチング
<https://match.jfc.go.jp/>



第4回「全国オンライン商談会」
 (令和6年2月13日～19日)(17、18日を除く)

(商談会当日のイメージ)

広報誌「日本公庫つなぐ」による情報の提供

日本公庫の機能・役割・取組みを広く知っていただき、「政策」と事業に取り組む方々等とを“繋ぐ”ため、広報誌「日本公庫つなぐ」による情報提供にも取り組んでいます。この「日本公庫つなぐ」では、公庫の取組みのほか、地域や企業の皆さまの取組み等を紹介しています。



詳しくは日本公庫ホームページをご覧ください。
https://www.jfc.go.jp/n/findings/tsunagu_index.html



サステナビリティの取組み

日本公庫は、業務運営を通じて持続可能な社会の実現に貢献していくためのサステナビリティ基本方針を定めています。

サステナビリティ基本方針

当公庫は、政策金融の的確な実施を通じた中小企業・小規模事業者や農林漁業者等への支援、関係機関との連携を通じた地域活性化及び環境に配慮した業務運営に努め、持続可能な社会の実現に貢献する。

◆基本的な考え方

業務運営計画の各項目の着実な遂行を通じ、サステナビリティを推進し、SDGsの達成に貢献する。

◆マテリアリティの特定

●サステナビリティを推進する上で取り組むべき重要課題(マテリアリティ)を次のとおり設定する。

- (1)セーフティネット機能を発揮し、お客さまの事業継続を支える
- (2)民間金融機関や関係機関と連携し、お客さまと地域の成長を支える
- (3)重点事業分野を重点的に支援し、お客さまと我が国の発展を支える
- (4)多様な人材が活躍できる職場を作り、働く職員の満足度を高める

●重要課題(マテリアリティ)に対する取組み状況については、取締役会に報告し、モニタリングを行うとともに、評価・審査委員会において評価を受け、サステナビリティ推進に向けた取組みの向上に努める。

◆地域社会との協調

サステナビリティの取組みの重要性をお客さまや関係機関と共有し、地域社会全体でのサステナビリティへの取組みの進展に貢献する。

◆人材育成

全役職員が政策金融を担う者として期待される役割を果たすため、「質の高いお客さまサービスの実現」及び「高度なマネジメント能力・専門性の養成」を目的とした職員教育の充実を図る。

◆社内環境整備

女性のキャリア開発を推進するとともに、性別を問わずワークライフ・マネジメントの実践が可能な職場づくりに取り組む。

◆全役職員への意識醸成

全役職員が本方針に基づくサステナビリティの推進に積極的に取り組むため、全役職員のサステナビリティに対する意識醸成を図る。

また、日本公庫の取組みがSDGsの各ゴールにどう貢献しているかを示したマッピングや融資先の取組み事例等をホームページで公表しています。

詳しくは日本公庫ホームページをご覧ください。
<https://www.jfc.go.jp/n/company/sdgs/index.html>



国民生活事業

地域経済を支える小規模事業者や創業企業の皆さまの成長・発展を支援しているほか、「国の教育ローン」でお子さまの未来を応援しています

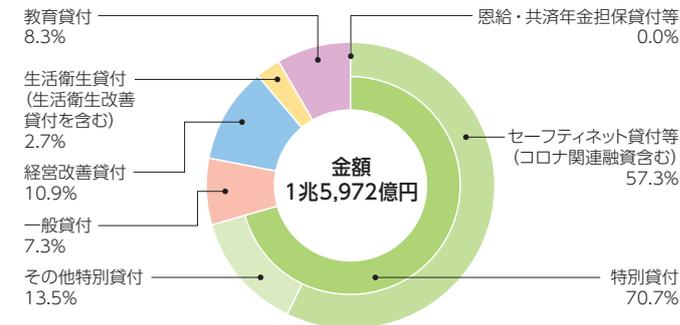
地域の身近な金融機関として、小規模事業者の皆さまをサポートする事業資金融資のほか、お子さまの入学資金などを必要とする皆さまへの教育資金融資など、国民生活に密着した融資を行っています。

そのうち、令和5年度末における事業資金の融資先数は117万先にのぼります。1先あたりの平均融資残高は877万円と小口融資が主体で、無担保融資の割合は全体の9割を超えています。また、融資先の約9割が従業者9人以下で、食料品店や工務店などの地域の生活に密着した企業からベンチャー企業などの新市場のパイオニアとなり得る企業まで、多種多様な小規模事業者の皆さまにご利用いただいています。セーフティネット機能の発揮としては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた小規模事業者の皆さまへの支援に取り組んでおり、新型コロナウイルス感染症に関連する融資実績は、相談窓口設置日である令和2年1月29日から令和6年3月末までの累計で約119万件、約13兆円となりました。

教育に関する家庭の経済的負担の軽減と教育の機会均等への貢献を目的とする「国の教育ローン」については、令和5年度のご利用件数が約9万件となりました。

国民生活事業は、セーフティネット機能を適切に発揮するとともに、地域経済の活性化につながる「創業・スタートアップ」、「事業承継」、「ソーシャルビジネス」などの支援やお子さまの入学資金などを必要とする皆さまへの支援に積極的に取り組んでいます。

融資実績の内訳 (令和5年度)

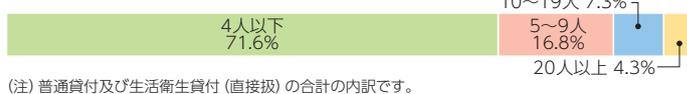


融資先数及び1先あたりの平均融資残高 (令和5年度末)

	日本公庫国民生活事業	信用金庫計(254金庫)	国内銀行計(132行)
融資先数	117万先	123万先	219万先
1先あたりの平均融資残高	877万円	4,394万円	1億1,456万円

(注) 1.日本公庫国民生活事業の数値は、普通貸付及び生活衛生貸付の融資先の合計です。
2.国内銀行とは、都市銀行、地方銀行、第二地方銀行、信託銀行などをいいます。
3.信用金庫の数値は日本銀行「預金・貸出関連統計」における「総計」の数値を、国内銀行の数値は同統計における「中小企業」の数値をベースとし、個人向け(住宅、消費、納税資金など)、地方公共団体向け、海外円借款、国内店名義現地貸を除いています。
4.信用金庫及び国内銀行の融資先数は、日本銀行「預金・貸出関連統計」における貸出件数を計上しています。
(資料)日本銀行ホームページ

従業者規模別融資構成比 (件数) (令和5年度)



(注) 普通貸付及び生活衛生貸付(直接扱)の合計の内訳です。

農林水産事業

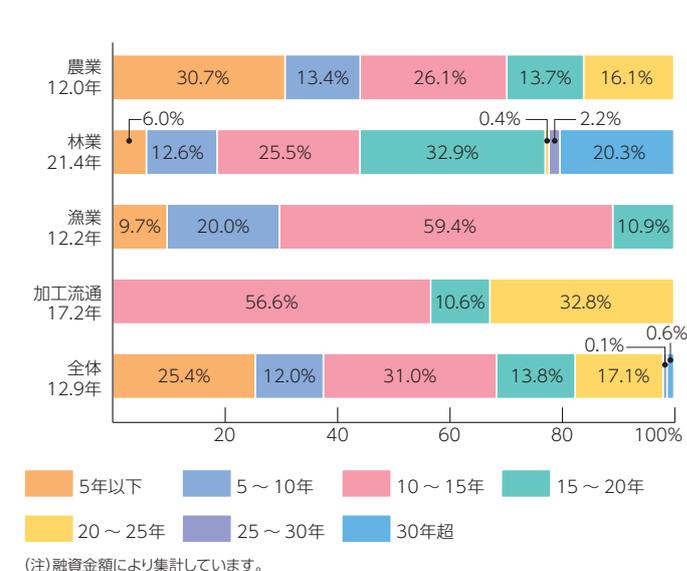
日本の食を支える農林漁業や食品産業の皆さまの経営発展を支援しています

農林漁業者や食品産業の皆さまへの融資・出資をはじめとするさまざまな支援事業を通じて、国内農林水産業の体質強化や安全で良質な食料の安定供給に貢献しています。

農林漁業の「天候などの影響を受けやすく収益が不安定」「投資回収に長期間を要する」といった特性を踏まえ、食料の安定供給の確保又は農林水産業の持続的かつ健全な発展に資する長期の資金を供給しています。

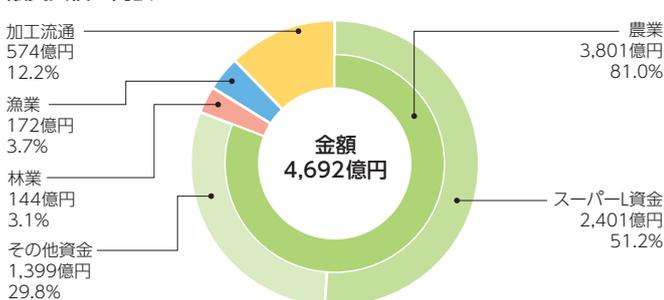
融資・出資のほかにも、農業・林業・水産業各分野の経営アドバイザーなどによる経営相談、「アグリフードEXPO」などによるビジネスマッチング支援、輸出に取り組むお客さまへのサポート業務などを実施するとともに、各種調査や情報誌を通じてお客さまの経営に役立つ情報を広く提供しています。

返済期間別の融資状況 (令和5年度)



(注) 融資金額により集計しています。

融資実績の内訳 (令和5年度)



中小企業事業

融資、信用保険などの多様な機能により、地域経済を支える中小企業・小規模事業者の皆さまの成長・発展を支援しています

さまざまな業種の中小企業者の皆さまに、国の政策に基づく特別貸付を実施し、事業資金を長期固定金利で安定的に供給することにより、民間金融機関による資金供給を補完しています。

業種別融資残高構成比（融資業務）（令和5年度末）

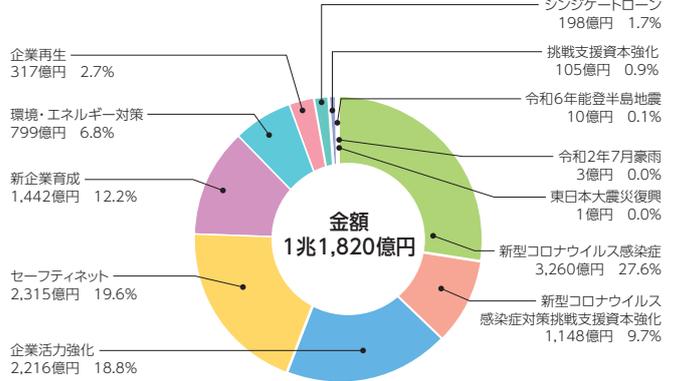


融資期間別貸出状況（金額構成比）（令和5年度）



（注）すべて固定金利

融資実績の内訳（令和5年度）



（注）融資には、社債を含みます。総融資実績から投資育成会社貸付を除いたものの内訳です。また、各融資制度の実績は1億円未満を切り捨てて算出しています。

● 公庫資金をご利用された方々が多くの分野でご活躍されています

これまで中小企業事業との取引を経て、株式の公開を果たした企業は、株式公開企業の約2割にあたる833先^(注)となっています。多くの方々がわが国を代表する企業として活躍されています。

平成元年以降についても、中小企業事業との取引を経て株式を公開した企業は669先^(注)と株式公開企業の約2割を占めています。

（注）先数は令和6年3月31日時点において株式を公開している企業数です（上場廃止、合併による消滅等を除く）。

中小企業事業との取引を経て株式を公開した企業



平成元年以降に中小企業事業との取引を経て株式を公開した企業



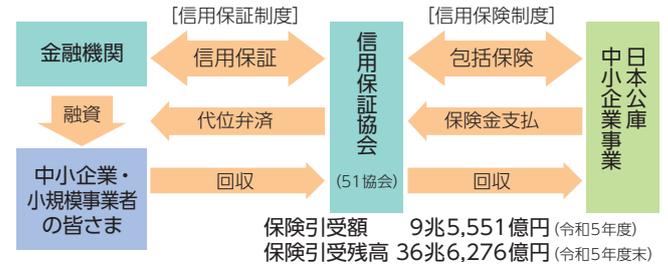
（注）日本公庫中小企業事業調べ。株式公開企業数は、令和6年3月31日時点。外国企業を除きます。

● 信用保証制度と一体となり、中小企業・小規模事業者の皆さまの事業資金の円滑な調達を支えています

担保力や信用力の乏しい中小企業・小規模事業者の皆さまが金融機関からの借入又は社債の発行などにより事業資金の調達を行う際に、信用保証協会が行う債務の保証（信用保証制度）について保険を行っています（信用保険制度）。

信用保険制度は、信用保証制度を通じて全中小企業の45%にあたる149万先（令和5年度末）の皆さまに利用されており、この両制度が一体となって機能することにより、中小企業・小規模事業者の皆さまに対する事業資金の供給の円滑化が図られています。

制度概略図

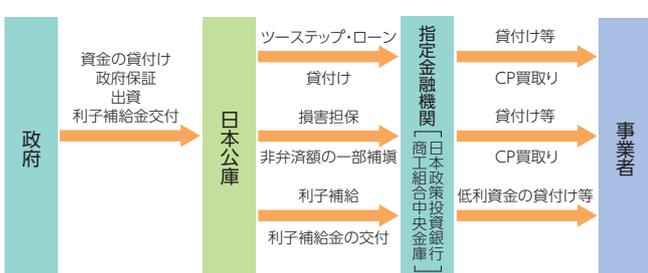


（注）保険引受額及び保険引受残高は、中小企業信用保険に係るものです。

危機対応円滑化業務

日本公庫は、主務大臣が認定する内外の金融秩序の混乱、大規模災害等の危機発生時において、危機対応円滑化業務を実施しています。危機発生時においては、一般に事業者の信用リスクが上昇するため、民間金融機関による資金供給が十分になされない事態が想定されます。このような事態に対処するため、公庫は指定金融機関への信用供与を通じて、指定金融機関による事業者への円滑な資金供給を促進しています。

制度概略図



危機対応円滑化業務の実績

	令和3年度	4年度	5年度
ツースtep・ローン	2,912億円	157億円	—
損害担保	5,931億円	1,707億円	—
利子補給	182億円	229億円	205億円

（注）損害担保の実績は、指定金融機関が令和6年3月末までに損害担保付き貸付け等を行ったもので、日本公庫が令和6年5月10日までに補償応諾した引受金額です。



詳しくは日本公庫ホームページをご覧ください

<https://www.jfc.go.jp/>

令和6年7月発行
株式会社日本政策金融公庫 広報部
東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー